



ジャカルタで10月に開かれた第10回アジア都市ジャーナリスト会議

インドネシアの首都ジャカルタで10月20日に開かれた「第10回アジア都市ジャーナリスト会議」に国連人間居住計画（ハビタット）福岡本部主催に参加し、インドネシア、インド、中国の記者4人と「都市化」をテーマに意見交換した。途上国の記者たちが人口の都市集中による弊害を訴えたのに対し、私は日本の人口減少問題を取り上げ、対照的な論議となった。
（バンコク野中彰久）

人口集中 都市部どう開発

アジア都市ジャーナリスト会議から

「祖先はモヘンジョダロやハラッパのような立派な都市を築いた。今の私たちにはそれができない」

エコノミックタイムズ紙（インド）のタレック・クリシュナン・アルン記者は、現代のまちづくりの難しさを指摘した。インドでは今後20年間に都市人口が2億5千万人も増え、2万平方キロが都市開発される見込み。急激な人口増加に都市計画や生活インフラ整備が追いつかない。

アジア太平洋地域では都市への人口集中が顕著だ。国連アジア太平洋経済社会委員会（エスカップ）とハビタット福岡本部の報告書によると、2018年にはこの地域の人口の半分が都市に集中し、50年には世界人口の3分の1に当たる32億人が住むと予測される。

ジャカルタの人口は20年後に現在世界一の東京を超える。コンバ

ス紙（インドネシア）のニヌック・マルディアナ・バムプティ記者は、人口集中に伴う交通渋滞や大気・水質汚染、洪水などの問題を指摘した。

都市環境の悪化に対し、上海日報（中国）の万里新記者は「子どもが安心して育つまちづくりの方向に向かうべきだ」と述べた。

日本は現在、空き家の増加など人口減少期の問題に向き合っている。私は持続可能な都市をつくるために長期的な視点からの開発制限が必要だと話した。

都市問題に対するジャーナリストの役割としては、「住民の声を行政にぶつけて答えを引き出す」（万記者）、「批判するだけでなく、住民、専門家とともに解決策を考える」（アルン記者）といった意見が出た。開発と環境のバランスを問うジャーナリズムは、都市問題をめぐる議論を深めるのに役立つだろう。